

分野：自然への愛着 生態系・生物多様性

## 「よしみ里山プロジェクト」

環境アドバイザー

田島 麻帆

対象 県内親子参加者 22名/全体 29名

所要時間



4時間

場所 埼玉県比企郡吉見町田甲

実施時期

令和3年 4月 18日

## 概要

みんなで守ろう！育てよう！よしみ里山プロジェクト

この活動は、埼玉県比企郡吉見町の雑木林を所有する山主から、人手不足で荒廃した林を何とか出来ないかと相談を受けたことがきっかけで2012年より保全活動を開始。数年間の手入れにより貴重な野草や野鳥の観察まで回復。2018年より年6回、親子向け野外ワークショップ活動を実施し、森林ESDや里山保全活動を継続している。

プログラムの  
ねらい

テーマ 木をつかう（2月）木をうえる（3月）振替活動

活動地は、クヌギやコナラの広葉樹林。管理用に伐採した木を利用して、しいたけ（きのこ）の菌打ちを体験します。昨年菌打ちした榎木にしいたけが育つ様子も観察。また、3年前から実施している果樹類の植樹も体験。冬から春にかけて行う里山保全管理について、2つの活動を体験する。（緊急事態宣言により中止した活動の振替実施）

## プログラムの内容

## 1 10:30~12:30 (120分)

午前活動 オリエンテーション、しいたけの榎木栽培の観察、菌打ち  
雑木林の冬から春の管理活動には、成長した木の伐採とその利活用がある。  
クヌギやコナラの木の利活用として、しいたけ栽培について体験する。

## 2 13:30~14:30 (60分)

午後活動 実のなる木の植樹

雑木林の冬から春の管理活動には、木を植え育てる活動がある。  
皆伐された場所をスコップで掘り、腐葉土を入れて、みかん、ゆず、柿、梅などを植樹する。

・日本の里山は、森林がもたらす豊かな恵みを暮らしに活かしてきた日本人独特の関わりの場。人と生き物が共に生きる自然環境である。活動地は、クヌギやコナラなどが大きく成長している。吉見の風土にあう果樹を植え、その成長の観察や、伐採した木を利用した榎木でしいたけを育て、きのこの成長を観察する。

## 受講者の反応

・はじめて、木を植える体験をしました。穴掘りがとても大変でした。筋肉痛になりそう。

・しいたけが成長している様子を見ることができた。しいたけは、菌の粉末を木にふりかけるのかと想像していたが、しいたけ菌を打ち込む体験によって、しいたけの育て方がわかった。

# 環境学習の様子（写真） ※表面に写真を掲載している場合は不要



**左上：しいたけ菌打ちの様子**

穴を均等にあげ、木にしいたけ菌を打ち込む

**右上：しいたけ菌打ちの様子**

同様

**中：果樹の植樹**

穴掘り、腐葉土を混ぜ、木を植える

**左下：果樹の植樹**

植樹の 体の様子

分野：自然への愛着 生態系・生物多様性

## 「よしみ里山プロジェクト」

環境アドバイザー

田島 麻帆

対象

県内親子参加者 19名/全体 20名

所要時間



4時間

場所

埼玉県比企郡吉見町田甲

実施時期

令和3年5月16日

## 概要

みんなで守ろう！育てよう！よしみ里山プロジェクト

この活動は、埼玉県比企郡吉見町の雑木林を所有する山主から人手不足で荒廃した林を何とか出来ないかと相談を受けたことをきっかけに2012年より保全活動を開始、数年間の保全活動により貴重な野草・野鳥観察まで回復。2018年より年6回、親子向け野外ワークショップ活動を実施し、森林ESDや里山保全活動を継続している。

プログラムの  
ねらい

テーマ 自然観察会・遊べる森づくり・2020年活動の振り返り

活動地周辺は、ポンポン山やハ丁湖（農業用水の溜池では比企地方最大の人造湖、周囲約1.8kmの湖畔）等、ウォーキングコースやハイキングの好適地として親しまれている。周辺の木々や植物や昆虫を観察し周囲の自然環境の理解を深める。また森林環境は木材利用以外にも様々な活用方法があることを体験する。

## プログラムの内容

## 1 10:30~12:00 (90分)

午前活動 オリエンテーション、自然観察会・振り返り

・当日は小雨がときどき降るような天候となったが、予定通りの自然観察会を短縮して実施した。人の生活につながりがある衣服の原料になる草や、生薬に使われる草花を観察、身近な環境のなかで活用してきた先人の知恵を伝えながら、生き物や植物の観察を実施した。

## 2 13:00~14:30 (90分)

午後活動 遊べる森づくり・木をつかうクラフト活動（マイ箸づくり）（自由参加）

・樹間にロープをはりバランス遊びができるスラッグラインや、ケーブルロープを樹間につなぐジップラインを設置して、森林（木々）空間を利用し、木材利活用以外の利用方法を体験した。

・間伐材（ヒノキ）を利用した箸づくりでは、小刀を使用し、木を削る体験を行った。

子どもも、大人も、木を削る活動に集中していて、自分の箸をつくることが出来た。

## 受講者の反応

- ・楽しみながら体験学習出来そうだったのが一番の動機でした。（保護者）
- ・子供たちが自然の循環や森や緑の大切さ、森林保護という問題を楽しく体験しながら学べたことは、子供たちにとって本当に貴重な機会だったと思います。また親もコロナ禍でなかなか外にでかける機会も減ってしまったので、自然で身体を動かすのがとても気持ち良かったです。（保護者）
- ・森の中で遊べた事が楽しかった。木のロープでターザンをやったのが楽しかった。（子ども）

## 環境学習の様子（写真）



上：自然観察会の様子 いくつかの八丁湖周辺コースから当日最適なコースを選択し、NPO スタッフと一緒に観察を行った。

下左：遊べる森づくりの様子 木の周りを保護して、ワイヤーやロープでジップラインを設置して遊べる森に変身！

下右上：遊べる森づくりの様子 ロープでスラッグラインを設置、大人気。下右下：間伐材（ヒノキ）を利用したマイ箸づくり。



分野：2

## 里山の秋 落ち葉の森と畑のつながり

環境アドバイザー

田島 麻帆

対象

埼玉県内の小学生(未就学)と保護者  
11 家族(約 25 名)

所要時間



2 時間

場所

埼玉県比企郡吉見町田甲

実施時期

令和3年11月23日

### 概要

学校外の多様な学びを実践する「多様な学びのプロジェクト」コドモ農業大学と、里山保全活動を通じた親子向け野外ワークショップ活動を実施。里山と農業のつながりや里山の環境保全について理解を深めるプログラムを実施した。

### プログラムの ねらい

- ・里山と農業のつながりを知る
- ・里山の資源の使い方を知る
- ・秋の里山を五感で感じる体験をする

### プログラムの内容

#### 1 秋から冬にかけての里山保全活動についての(20分)

- ・全体のオリエンテーション
- ・里山の秋から冬の保全活動について説明する
- ・農業活動で育てた「サツマイモ」を、里山で焼き芋にする

#### 2 活動の体験(80分)

- ・参加者は2グループにわかれて交互に体験活動を実施する
- ・体験1：落ち葉はき 落ち葉を熊手やほうきで掃いて落ち葉だめに溜める。
- ・体験2：しいたけ栽培、果樹畑、バイオマストイレ、資源活用や循環型農業とのつながり
- ・落ち葉の腐葉土は、たくさんの生き物の住処になるという話(カブトムシの幼虫など)

#### 3 まとめ(20分)

農業に深いかわりをもつ里山の自然や役割について理解深め、体験からの気づきを共有した。

### 受講者の反応

- ・広葉樹と針葉樹の違いについて、子供から質問があり実際に違いを見比べた。
- ・普段、落ち葉をゴミ袋に入れて燃えるゴミで出していたが、落ち葉はき体験や話をきいて、勿体なかったという気持ちになったという感想があった。
- ・野外活動でネックになるトイレが、安心して利用できてよかったという声が聞かれた。
- ・両隣が森林伐採され開発されていることで、これまでに増し貴重な自然環境との声があった。



落ち葉はきの様子



育てたサツマイモで焼き芋体験

分野：自然への愛着 生態系・生物多様性

## みんなで守ろう！育てよう！よしみ里山プロジェクト

環境アドバイザー

田島 麻帆

対象 県内親子参加者 8名／全体 15名

所要時間



2時間

場所 埼玉県比企郡吉見町田甲

実施時期

令和4年 3月 13日

## 概要

みんなで守ろう！育てよう！よしみ里山プロジェクト

この活動は、埼玉県比企郡吉見町の雑木林を所有する山主から、人手不足で荒廃した林を何とか出来ないかと相談を受けたことがきっかけで2012年より保全活動を開始。数年間の手入れにより貴重な野草や野鳥の観察まで回復。2018年より親子向け野外ワークショップ活動を実施し、森林ESDや里山保全活動を継続している。

プログラムの  
ねらい

テーマ 木をつかう（2月）振替活動

活動地は、クヌギやコナラの広葉樹の雑木林です。管理用に伐採した木を利用して、しいたけ（きのこ）菌打ちを体験します。1年前、2年前に菌打ちした楢木で、しいたけが育つ様子も観察しながら、雑木林での林産物について理解を深めます。

## プログラムの内容

## 1 10:00~12:00 (120分)

午前活動 オリエンテーション、しいたけの楢木栽培の観察、菌打ち、植樹の土づくり。  
雑木林の冬から春の管理活動には、成長した木の伐採とその利活用がある。  
クヌギやコナラの木の利用として、しいたけ栽培について体験する。  
キノコ類などの菌類と土壌の関係を、こどもたちにわかりやすい絵本を利用し伝える。

- 日本の里山は、森林がもたらす豊かな恵みを暮らしに活かしてきた日本人独特の関わりの場。人と生き物が共に生きる自然環境である。活動地は、クヌギやコナラなどが大きく成長している。吉見の風土にあう果樹を植え、その成長の観察や、伐採した木を利用した楢木でしいたけを育て、きのこの成長を観察する。

## 受講者の反応

- しいたけの楢木を観察して、実際にどのようにしいたけができるのか理解できた。
- これまでしいたけを食べなかった子供が、しいたけの収穫をきっかけに関心をもつことがきっかけで、自宅でも食べるようになったとの話があった。

## 環境学習の様子（写真）



**左上：しいたけ菌打ちの様子**

穴を均等にあけ、木にしいたけ菌を打ち込む

**右上：2年前の榎木を観察**

しいたけが大きく育つ様子



分野：自然への愛着 生態系・生物多様性

## みんなで守ろう！育てよう！よしみ里山プロジェクト

環境アドバイザー

田島 麻帆

対象

県内親子参加者 8名／全体 15名

所要時間



1時間

場所

埼玉県比企郡吉見町田甲

実施時期

令和4年 3月 13日

## 概要

みんなで守ろう！育てよう！よしみ里山プロジェクト

この活動は、埼玉県比企郡吉見町の雑木林を所有する山主から、人手不足で荒廃した林を何とか出来ないかと相談を受けたことがきっかけで2012年より保全活動を開始。数年間の手入れにより貴重な野草や野鳥の観察まで回復。2018年より親子向け野外ワークショップ活動を実施し、森林ESDや里山保全活動を継続している。

プログラムの  
ねらい

テーマ 木をうえる（3月）振替活動

活動地は、クヌギやコナラの広葉樹の雑木林です。3年前から実施している果樹類の植樹を体験し、花が咲き始めた梅や、ミカン類の果樹などが育つ様子を観察します。

## プログラムの内容

## 1 13:00~14:00 (60分)

午後活動 里山の木の植樹

活動地で、3年前から育てはじめている果樹の生育の様子、梅の開花を観察する。

2から3月に植樹を体験する。

植える前に、根回りに穴を掘り、腐葉土と、赤玉土などを適当に混合した土をつくる。

植えた後に、雨水タンクの水をバケツにくみ、根回りへの水やりを行う。

・日本の里山は、森林がもたらす豊かな恵みを暮らしに活かしてきた日本人独特の関わりの場。人と生き物が共に生きる自然環境である。活動地は、クヌギやコナラなどが大きく成長している。吉見の風土にあう果樹を植え、その成長の観察や、伐採した木を利用した楢木でしいたけを育て、きのこの成長を観察する。

## 受講者の反応

- ・穴が掘りやすい場所と、穴が掘りづらい場所があり、土の様子の違いを体感できた。
- ・はじめて、果樹を植える体験をしたので楽しかった。

## 環境学習の様子（写真）



**左上：果樹の植樹**

穴掘り、腐葉土を混ぜて、木を植える

**右上：果樹の植樹**

穴掘り、腐葉土を混ぜて、木を植える